

# 平成28年産さくらんぼ作柄調査結果

平成28年5月25日  
山形県さくらんぼ作柄調査委員会

1 調査期日 平成28年5月23日（月）

2 調査場所 県内主要産地48園地

## 3 調査結果

花束状短果枝当たりの着果数<sup>\*</sup>は1.98果で、前年の1.65果を上回っています。

今年は、4月12日の低温・降霜により県内各地で雌しべの枯死がみられましたが、開花期の天候に恵まれたことから、全体的には十分な着果数が確保されました。なお、置賜地域など、低温・降霜による雌しべの枯死率が高かったところでは、着果数が極端に少ない園地も見られます。

## 4 作柄概況

### (1) 収穫量の予測

作柄調査の結果等を受けて、山形県さくらんぼ作柄調査委員会で検討したところ、現時点で、収穫量は14,200t程度と予想され、前年比108%、平年比105%となり、「やや多い」と見込まれます。

【前年収穫量】13,200t 【平年収穫量】13,500t(過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値)

※作柄は平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

### (2) 「佐藤錦」、「紅秀峰」の収穫期の見込み

①「佐藤錦」の収穫盛期は、平年より5日程度早く、ほぼ前年並みの6月18日～22日頃と予想されます。

②「紅秀峰」の収穫盛期は、平年より5日程度早く、ほぼ前年並みの6月26日～30日頃と予想されます。

## 5 今後の対応等

調査結果を踏まえ、着果が多い園地における摘果作業の実施や、過度な葉摘みによらない着色管理、適期収穫など、高品質生産・出荷に向けて指導を徹底してまいります。

なお、今後、気象災害等作柄に大きな変化がある場合には、補完調査を実施し、逐次お知らせします。

※)「花束状短果枝(かそくじょうたんかし)当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼びます。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているので平均着果数は2果となります。